

詩編 136 篇

分類：賛美歌

[概 説]

136 篇は礼拝用の交誦歌で、「慈しみはとこしえに。」という後半部分の言葉がずーっと繰り返される。内容的には神の自然支配とイスラエルに対する救いのわざが告白される。

特に、終わりの21節～26節は、135篇8-14（特に、10-12を繰り返しており）のつながりが考えられる。

ユダヤ教では「大ハレル詩篇」と呼ばれる詩篇である。ちなみに、「小ハレル」は113編、114編、115編、116編、117篇、118編で、過ぎ越しの食事では、それらに続いて136編が歌われた（過ぎ越しの食事の式文・『ハガダー』参照）。

祭司、レビ人、聖歌隊、会衆がどのように分担して参加したのか明確には言い切れないが、礼拝者全員の参加による信仰の告白の歌である。私たちの交誦詩編を用いる礼拝と重なることがわかる。

【 表題 】

- 岩波 典礼文の形式で、神の創造と救いの歴史をを述べる、神の恵みへの讃歌。
- 月本 かれの慈愛は永遠に
- フラ 主の慈しみは永遠
- 新改 永遠の神の恵みへの感謝の式文
- 略解 命令賛美歌

▼ 1-3 節 至高の神に対して会衆に感謝と賛美を呼びかける。
107:1、118:1 参照。

◆詩篇 107:1 「恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに」と

◆詩篇 118:1 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

1 節

●口語 主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

●新改 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

●フラ 主に感謝せよ、主は恵み深い。主の慈しみは永遠。

●LB 絶え間なく恵みを注いでくださる神様に感謝しなさい。

●岩波 讃えよ、ヤハウエを、まことに善き方。まことに、かれの恵みはとこしえに。

●月本 ヤハウエを讃えよ、かれはじつに恵み深い。じつに、かれの慈愛は永遠に。

●共同 主に感謝せよ。まことに主は恵み深い。慈しみはとこしえに。

●新共 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

1 節

交読の形が明確にわかる。第一行を祭司が詠んで会衆に向かって賛美を促し、キーという強意を表す言葉のあとの第二行を会衆が賛美する形式。最終節の 26 節と共に、136 篇の枠組みを形成している。詩篇 106、107、118 の冒頭の句と全く同じ。

◆詩篇106:1 ハレルヤ。恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに。

◆詩篇107:1 「恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに」と

◆詩篇118:1 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

※石川は直訳として次を提案。

「ヤハウエをたたえよ、まことに（キー）彼は恵み深い。まことに（キー）彼の慈しみはとこしえに。」

【主に感謝せよ】「感謝せよ」（ホドゥー）は、他の訳のように「讃えよ」であることは、私たちの祈りや、賛美の姿勢について、単純に多くのことを教えてくれている。

【慈しみはとこしえに】 神の慈しみ・恵みは永遠である。2 節以下、136 篇では終わりまで同じ言葉が繰り返される。エズラ記 3:11、歴代誌下 7:3、6 には、このような応答の歌が歌われた事実が述べられている。

◆エズラ記3:10以下 10 建築作業に取りかかった者たちが神殿の基礎を据えると、祭服を身に着け、ラッパを持った祭司と、シンバルを持ったアサフの子らであるレビ人が立って、イスラエルの王ダビデの定めに従って主を賛美した。11 彼らも「主は恵み深く、イスラエルに対する慈しみはとこしえに」と唱和して、主を賛美し、感謝した。主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。12 昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。13 人々は喜びの叫び声と民の泣く声を識別することができなかった。民の叫び声は非常に大きく、遠くまで響いたからである。

◆歴代誌下7:3以下 7:1 ソロモンが祈り終わると、天から火が降って焼き尽くす献げ物といけにえをひとなめにし、主の栄光が神殿に満ちた。2 祭司たちは、主の栄光が神殿に満ちたので、神殿に入ることができなかった。3 イスラエル人は皆、火と主の栄光が神殿に降るのを見て、ひざまずいて敷石の上に顔を伏せ、礼拝して、「主は恵み深く、その慈しみはとこしえに」と主を賛美した。4 王はすべての民と共に主の御前にいけにえをささげた。5 ソロモン王は牛二万二千頭、羊十二万匹をささげた。こうして、王はすべての民と共に神殿を奉獻した。6 祭司たちはその務めに就き、レビ人たちも、主の楽器を持って立った。その楽器は、ダビデ王が、彼らの演奏によって賛美をささげるとき、「その慈しみはとこしえに」と主をたたえるために作ったものである。彼らの傍らで祭司たちはラッパを吹いた。すべてのイスラエル人が立っていた。

2 節

- 口語 もろもろの神の神に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 神の神であられる方に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。
- フラ 神々の神に感謝せよ。主の慈しみは永遠。

- LB 神々の神であられるお方に感謝しなさい。その恵みはいつまでも絶えることはありません。
- 岩波 讃えよ、神々の神を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 岩波 神の神を讃えよ、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 神々の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
- 新共 神の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

2 節

【神の神】 要するに最高の神という表現か。神の絶対的な主権をあきらかにする言葉と思われる。3 節の「主の主」も同様。申命記 10:17 とここだけに見られる。

◆申命記10:17を含む箇所 15 主はあなたの先祖に心引かれて彼らを愛し、子孫であるあなたたちをすべての民の中から選んで、今日のようにしてくださった。16 心の包皮を切り捨てよ。二度とかたくなになっはならない。17 あなたたちの神、主は神々の中の神、主なる者の中の主、偉大にして勇ましく畏るべき神、人を偏り見ず、賄賂を取ることせず、18 孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。19 あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。

3 節

- 口語 もろもろの主の主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主の主であられる方に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。
- フラ もろもろの主の主に感謝せよ。主の慈しみは永遠。
- LB 主の主に感謝しなさい。その恵みはいつまでも絶えません。
- 岩波 讃えよ、主たちの主を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 主の主を讃えよ、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
- 新共 主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

3 節

【主の主】主が2度繰り返されるが、いずれも複数形で記される。石川は後者は威厳を表す複数形と考える。

▼ 4-9 節 創造の主である神を賛美する

4 節

- 口語 ただひとり大いなるくすしきみわざを／なされる者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 ただひとり、大いなる不思議を行なわれる方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 主はただひとり大いなる不思議な業を行われる。主の慈しみは永遠。
- LB めざましい奇蹟をなさる、ただ一人のお方をほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 大きな不思議な業をただひとりで行う方を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 ひとりで偉大な不思議の数々を果たされた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 ただひとり大いなる奇しい業を行う方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 ただひとり 驚くべき大きな御業を行う方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

4 節

詩人は創造と歴史に現れた神に目を向けさせ神を讃えさせる。

【ただひとり】神ヤハウエが他の助けも必要とせずという意味合い。詩篇 86:10 参照。

◆詩篇86:10あなたは偉大な神／驚くべき御業を成し遂げられる方／ただあなたひとり、神。

【驚くべき大きな御業】は「大いなる奇しい業」「偉大な不思議の数々」などに訳されるが、月本は、この言葉について「出エジプトの奇蹟を指すことが多いが、ここでは創造の業」と指摘。

5 節

- 口語 知恵をもって天を造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 英知をもって天を造られた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 主は知恵をもって天を造られた。主の慈しみは永遠。
- LB 天を造られたお方をほめたたえなさい。その恵みは永遠のものです。
- 岩波 巧妙に天を作った方を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 英知をもって天を造られた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 英知をもって天を造った方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 英知をもって天を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

5 節

【英知をもって】英知はテブナーで、英知による創造は、箴言 3:19、参照。創世記の創造には見られない表現。

◆箴言3:19 19 主の知恵によって地の基は据えられ／主の英知によって天は設けられた。

6 節

- 口語 地を水の上に敷かれた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 地を水の上に敷かれた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 水の上に大地を広げられた。主の慈しみは永遠。
- LB 地中に水脈を巡らされたお方をほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 水の上に地を踏み固めた方を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 水の上に地を引き延ばされた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。

- 共同 水の上に大地を広げた方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 大地を水の上に広げた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

6 節

【大地を水の上に広げた方に】大地は海の上に造られた建造物と見なされていた。これも創世記には見られない表現。詩篇 24:2、44:24、135:6、イザヤ書 42:5、44:24 参照。136 編において植物、動物、人間の創造は触れられていない。ただ、最後に、「肉なるものすべてに糧を与え」養う方として表現される。

◆詩篇24:2主は、大海の上に地の基を置き／潮の流れの上に世界を築かれた。

◆詩篇44:24 主よ、奮い立ってください。なぜ、眠っておられるのですか。永久に我らを突き放しておくことなく／目覚めてください。

◆詩篇135:6 天において、地において／海とすべての深淵において／主は何事をも御旨のままに行われる。

◆イザヤ書42:5主である神はこう言われる。神は天を創造して、これを広げ／地とそこに生ずるものを繰り広げ／その上に住む人々に息を与え／そこを歩く者に霊を与えられる。

◆イザヤ書44:24あなたの贖い主／あなたを母の胎内に形づくられた方／主はこう言われる。わたしは主、万物の造り主。自ら天を延べ、独り地を踏み広げた。

▼ 7-9 節 創世記 1:14 ～参照。

7 節

- 新改 大いなる光を造られた方に。その恵みはとこしえまで。
- 口語 大いなる光を造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- フラ 大きな光るものを造られた、主の慈しみは永遠。
- LB 天に明かりをともされたお方をほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。

- 岩波 大きな光たちを作った方を、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 大きな光を造られた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 大きな光を造った方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 大きな光を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

7 節

7-9 節を読む際には、創世記 1 章を思い巡らしたい。特に、創世記 1:14-17 参照。

◆創世記1:14 神は言われた。「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。15 天の大空に光る物があって、地を照らせ。」そのようになった。16 神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。17 神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、

8 節

- 口語 昼をつかさどらすために日を造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 昼を治める太陽を造られた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 昼を司る太陽を、主の慈しみは永遠。
- LB 8-9昼のために太陽を、夜のためには月と星とを造られたお方の恵みは、絶えることなく続きます。
- 岩波 昼を統治するために太陽を、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 昼を治めるものとして太陽を造られた、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 昼をつかさどるために太陽を 慈しみはとこしえに。
- 新共 昼をつかさどる太陽を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

8 節

【造った】は翻訳上の補いの語であり、原文にはない。太陽さえも神格化されておらず、神の被造物であると言われている。

9 節

- 口語 夜をつかさどらすために月と、もろもろの星とを造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 夜を治める月と星を造られた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 夜を司る月と星とを。主の慈しみは永遠。
- LB 8-9 昼のために太陽を、夜のためには月と星とを造られたお方の恵みは、絶えることなく続きます。
- 岩波 夜を統治するために月と星たちを。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 夜を治めるものとして月と星を造られた、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 夜をつかさどるために月と星を造った方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 夜をつかさどる月と星を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

9 節

【夜をつかさどる月と星】夜には、月と星が空を満たすことが前提。アブラハムは星空を見上げ、神と語り合った。創世記 15:5-6 参照。「治める」「統治する」の訳も見える。

◆創世記15:5-6 15:5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」
6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

▼ 10-15 節 イスラエルをエジプトからの救い出された・解放された主の恵みを告白する（特に、出エジプト記 7 章～ 12 章）。詩篇 135:8-9 参照。

10 節

- 口語 エジプトのういごを撃たれた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 エジプトの初子を打たれた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ エジプトの長子を討たれた、主の慈しみは永遠。

- LB エジプト人の長男を打ち殺された神様をほめたたえなさい。イスラエルへの恵みは絶えることはありません。
- 岩波 エジプトの長子らを打ち、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 エジプトでその初子を撃たれた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 エジプトで初子を打ち 慈しみはとこしえに。
- 新共 エジプトの初子を討った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

10 節

出エジプト記 12:29-30 参照。エジプトに下された最大の災い。他に、詩篇 78:51、105:36、135:8 参照。

◆出エジプト記12:29-30 29 真夜中になって、主はエジプトの国ですべての初子を撃たれた。王座に座しているファラオの初子から牢屋につながれている捕虜の初子まで、また家畜の初子もことごとく撃たれたので、30 ファラオと家臣、またすべてのエジプト人は夜中に起き上がった。死人が出なかった家は一軒もなかったので、大いなる叫びがエジプト中に起こった。

◆詩篇78:51エジプトのすべての初子を／ハムの天幕において／力の最初の実りを打たれた。

◆詩篇105:36 主はこの国の初子をすべて撃ち／彼らの力の最初の実りをことごとく撃たれた。

◆詩篇135:8含む 135:8 主はエジプトの初子をことごとく／人の子も家畜の子も撃ち 9 エジプト中に、しるしと奇跡を送られた／ファラオとその家臣すべてに対して。

10 主は多くの国を撃ち、強大な王らを倒された

11 節

- 口語 イスラエルをエジプトびとの中から／導き出された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主はイスラエルをエジプトの真中から連れ出された。その恵みはとこしえまで。
- フラ 彼らの中からイスラエルを導き出された。主の慈しみは永遠。

- LB 11-12神様は、大いなる力を背景にイスラエルの人々を連れ出し、敵に対しては、こぶしを振りかざされました。イスラエルへの恵みは絶えることはありません。
- 岩波 そのなかからイスラエルを引き出した方を、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 イスラエルをそのなかから導き出された方、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 そこからイスラエルを 慈しみはとこしえに。
- 新共 イスラエルをそこから導き出した方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

11 節

「そこから」は、月本によると別訳で「彼らの虐待から」が存在するという。詩篇 72:14 参照。出エジプト記 12:51 も参照。

◆詩篇72:14 不法に虐げる者から彼らの命を贖いますように。王の目に彼らの血が貴いものとされますように。

◆出エジプト記12:51 まさにこの日に、主はイスラエルの人々を部隊ごとにエジプトの国から導き出された。

【イスラエル】ここでは、族長であるヤコブの子孫の 12 部族を指している。

12 節

- 口語 強い手と伸ばした腕とをもって、これを救い出された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 力強い手と差し伸ばされた腕をもって。その恵みはとこしえまで。
- フラ 強い手と伸ばした腕とをもって。主の慈しみは永遠。
- LB 11-12神様は、大いなる力を背景にイスラエルの人々を連れ出し、敵に対しては、こぶしを振りかざされました。イスラエルへの恵みは絶えることはありません。
- 岩波 強い手と伸ばされた腕とで。まことに、かれの恵みはとこしえに。

- 月本 強い手と伸ばした腕をもって、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 力強い手と伸ばした腕で導き出した方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 力強い手と腕を伸ばして導き出した方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

12 節

【力強い手と腕を伸ばして導き出した方】手も腕も力の象徴である。神の直接的な介入と助力を描いている。「強い手」は出エジプト記 13:3、13:14 参照。「伸ばした腕」は出エジプト記 6:6、7:5、15:12 参照。

◆出エジプト記 13:3 モーセは民に言った。「あなたたちは、奴隷の家、エジプトから出たこの日を記念しなさい。主が力強い御手をもって、あなたたちをそこから導き出されたからである。酵母入りのパンを食べてはならない。

◆出エジプト記 14 将来、あなたの子供が、『これにはどういう意味があるのですか』と尋ねるときは、こう答えなさい。『主は、力強い御手をもって我々を奴隷の家、エジプトから導き出された。』

◆出エジプト記6:6それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。

◆出エジプト記7:5わたしがエジプトに対して手を伸ばし、イスラエルの人々をその中から導き出すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。」

◆出エジプト記15:12あなたが右の手を伸べられると／大地は彼らを呑み込んだ。

二つを並べた表現は、申命記 4:34、5:15 参照。

◆申命記 4:34 あるいは、あなたたちの神、主がエジプトにおいてあなたの目の前になされたように、さまざまな試みとするしと奇跡を行い、戦いと力ある御手と伸ばした御腕と大いなる恐るべき行為をもって、あえて一つの国民を他の国民の中から選出し、御自身のものでされた神があったであろうか。

◆申命記5:15 あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのため、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。

13 節

- 口語 紅海を二つに分けられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 葦の海を二つに分けられた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 葦の海を二つに分けられた。主の慈しみは永遠。
- LB 紅海を真っ二つにし、道をあけてくださった神様を、ほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 葦の海をきれぎれに断ち、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 葦の海を切り分けられた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 葦の海を二つに分け 慈しみはとこしえに。
- 新共 葦の海を二つに分けた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

13 節

出エジプト記 14:21-22 を参照。主による奇跡的な救済があった。月本は自身の訳を「切り分け」とした上で、「二分でなく、細分するとの意味合い」とし、出エジプト記に無い表現と指摘しているが、細かなことはあまり意味がないのではと思われる。

◆出エジプト記14:21-22 21 モーセが手を海に向かって差し伸べると、主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地に変わり、水は分かれた。22 イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。

14 節

- 口語 イスラエルにその中を通らせられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

- 新改 主はイスラエルにその中を通らせられた。その恵みはとこしえまで。
- フラ イスラエルにその中を通らせた。主の慈しみは永遠。
- LB その道が無事に通らせてくださったのも、神様です。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 イスラエルにそのなかを渡らせ、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 イスラエルにそのなかを渡らせた方、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 イスラエルにそこを渡らせ 慈しみはとこしえに。
- 新共 イスラエルにその中を通らせた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

14 節

ヨハネによる福音書 14:6 を思い起こす。「道、真理、命」である主は出エジプトの旅路をも導かれた。

◆ヨハネによる福音書14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

15 節

- 口語 パロとその軍勢とを紅海で／打ち敗られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 パロとその軍勢を葦の海に投げ込まれた。その恵みはとこしえまで。
- フラ ファラオとその軍勢を葦の海に投げ込まれた。主の慈しみは永遠。
- LB 一方、エジプト王の軍隊はおぼれてしまいました。イスラエルへの神様の恵みは、絶えることはありません。
- 岩波 ファラオとその兵力を葦の海に振りい落とされた方を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 ファラオとその軍隊を葦の海に投げ込まれた方、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 ファラオとその軍勢を葦の海に投げ込まれた方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 ファラオとその軍勢を 葦の海に投げ込んだ方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

15 節

出エジプト記 15:4 参照。

◆出エジプト記 15:4 主はファラオの戦車と軍勢を海に投げ込み／えり抜きの戦士は葦の海に沈んだ。

▼ 16-22 節 荒野の 40 年の守りと約束の地であるカナンへの導きを告白。135:10-12 参照。

16 節

- 口語 その民を導いて荒野を通らせられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 荒野で御民を導かれた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ ご自分の民を荒れ野を通らせた。主の慈しみは永遠。
- LB 荒野を旅する間も導いてくださったお方を、ほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 おのが民を荒野に行かせた方を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 その民に荒野を行かせられた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 その民に荒れ野を行かせた方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 イスラエルの民に荒れ野を行かせた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

16 節

荒野の 40 年は、民数記、申命記を読み込む必要あり。

▼ 17-22 節 カナン侵入期 詩篇 135:10-12 に似る。

17 節

- 口語 大いなる王たちを撃たれた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

- 新改 大いなる王たちを打たれた方に。その恵みはとこしえまで。
- フラ 大いなる王たちを討たれた。主の慈しみは永遠。
- LB 強大な諸国の王の手から救い出してくださったお方を、ほめたたえなさい。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 大きな王たちを打ち、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 偉大な王たちを撃たれた方を、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 大いなる王たちを打った方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 強大な王たちを討った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

17 節

カナンへの侵入の時の主の守りを思い起こす。詩篇 135:10 参照。

18 節

- 口語 名ある王たちを殺された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主は力ある王たちを、殺された。その恵みはとこしえまで。
- フラ 力ある王たちを滅ぼされた、主の慈しみは永遠。
- LB 勇名をはせた王も、敵対すれば神様の手で打たれました。イスラエルへの神様の恵みは、絶えることはありません。
- 岩波 偉大な王たちを殺し、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 かれは力強い王たちを殺害された、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 力強い王たちを 慈しみはとこしえに。
- 新共 力ある王たちを滅ぼした方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

18 節

原文は「共同」に近い。

19 節-20 節

- 口語 19 アモリびとの王シホンを殺された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶

えることがない。20バシヤンの王オグを殺された。その恵みはとこしえまで。

- 新改 19エモリ人の王シホンを殺された。その恵みはとこしえまで。20バシヤンの王オグを殺された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- フラ 19アモリ人の王シホンを、主の慈しみは永遠。20バシヤンの王オグを。主の慈しみは永遠。
- LB 19-20エモリ人の王シホンも、バシヤンの王オグも、神様の手にかかって殺されました。イスラエルへの恵みは絶えることはありません。
- 岩波 19アモリ人の王シホンを、まことに、かれの恵みはとこしえに。20バシヤンの王オグを滅ぼした方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
- 月本 19アモリ人の王シホンを、じつに、かれの慈愛は永遠に。20バシヤンの王オグを、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 19アモリ人の王シホンを 慈しみはとこしえに。20バシヤンの王オグを殺した方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 19アモリ人の王シホンを滅ぼした方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。20バシヤンの王オグを滅ぼした方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

19 節-20 節

19-20 節は、カナン侵入期の戦闘において、死海北東方面での代表的なもの。135:11 も同様のことが触れられている。

【王シホン】【王オグ】イスラエルが最初に戦った王たちのこと。彼らはイスラエルを迎え撃とうとして、逆に撃たれたヨルダン川東岸の王である。民数記 21:21-35、ヨシュア記 12:2-5 参照。要するに、カナンの地での先住民たちで代表的な人物が記されている。

◆民数記21:21以下

■シホンとオグに対する勝利 21 イスラエルは、アモリ人の王シホンに使者を遣わして、次のように言った。22 「あなたの領内を通過させてください。道をそれて畑やぶどう畑に入ったり、井戸の水を飲んだりしません。あなたの国境を越えるまで『王の道』を通ります。」 23 しかしシホンは、イスラエルが自分の領内を通過することを許さず、全軍を召集し、イスラエルを迎え撃つために、荒れ野にあるヤハツに軍を進

め、イスラエルと戦った。24 しかし、イスラエルは彼を剣にかけて、南はアルノン川から北はヤボク川、東はアンモン人の国境まで、その領土を占領した。アンモン人の国境は堅固であった。25 イスラエルはこうして、そのすべての町を取り、ヘシュボンとその周辺の村落など、アモリ人のすべての町に住んだ。26 ヘシュボンは、アモリ人の王シホンの都である。シホンは先代のモアブ王と戦って、その手からアルノン川に至るまでの全土を奪い取っていた。27 それゆえ、次のように歌う者がいる。来れ、ヘシュボンは築かれ／シホンの都は固く建てられる。28 ヘシュボンから火が出／シホンの都から炎が噴き出て／モアブのアルを焼き／アルノンのバモトの君たちを滅ぼした。29 モアブよ、お前は災いだ。ケモシュの民よ、お前は滅びた。息子たちは難民となり／娘たちはアモリ人の王シホンの捕虜となった。30 我々は彼らを撃ち滅ぼした／ヘシュボンからディボンまで。我々は荒廃させた／ノファから、メデバまで。31 イスラエルはこうして、アモリ人の地に住んだ。32 その後、モーセはヤゼルを偵察するために人を送り、その周辺の村落を占領し、そこに住んでいたアモリ人を追い出した。33 それから転じて、バシャンに至る道を上って行くと、バシャンの王オグはこれを迎え撃つために、全軍を率いてエドレイに来た。34 主はモーセに言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは彼とその全軍、その国をあなたの手に渡した。あなたは、ヘシュボンの住民アモリ人の王シホンにしたように、彼にもせよ。」35 イスラエルは彼とその子らを含む全軍を一人残らず撃ち殺し、その国を占領した。

21 節～ 22 節

- 口語 彼らの地を嗣業として与えられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。22そのしもベイスラエルに嗣業として／これを与えられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主は彼らの地を、相続の地として与えられた。その恵みはとこしえまで。22主のしもベイスラエルに相続の地として。その恵みはとこしえまで。
- フラ 彼らの土地を分け前として、主の慈しみは永遠。22分け前としてご自分の僕イスラエルに与えられた。主の慈しみは永遠。
- LB これらの王の領地は、イスラエルのものになりました。神様の恵みは絶えることはありません。22そうです、神様に仕えるイスラエルへの、変わる

ことのない贈り物としてです。 神様の恵みは絶えることはありません。

- 岩波 彼の地を嗣業として与えた、まことに、かれの恵みはとこしえに。22おのが僕 イスラエルに嗣業として。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 彼らの地を嗣業として与えてくださった、じつに、かれの慈愛は永遠に。22その僕イスラエルに嗣業として、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 彼らの土地を相続地として 慈しみはとこしえに。22僕イスラエルの相続地として与えた方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 彼らの土地を嗣業として与えた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。22僕イスラエルの嗣業とした方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

21 節

地図を見て確かめたいが、イスラエル 12 部族のうち、ガド族、ルベン族、そして、マナセ（東）の半分がヨルダン川東部に定着した。民数記 32:33 参照。

◆民数記 32:33 モーセは、ガドとルベンの人々、ヨセフの子であるマナセの半部族に、アモリ人の王シホンの王国、バシャン王オグの王国、すなわちその領内にある土地と町々、およびその周辺の町々を与えた。

【嗣業】 ナハラー、詩篇 2:8 参照。

◆詩篇 2:8 求めよ。わたしは国々をお前の嗣業とし／地の果てまで、お前の領土とする。

【僕イスラエル】 イスラエルの民をヤハウエの僕と呼ぶのは第二イザヤの特徴とされる。イザヤ書 41:8-9、44:1-2、21 他。僕として神に仕えること、礼拝することがイスラエルの務めであるとの自覚が求められる。

◆イザヤ書 41:8 わたしの僕イスラエルよ。わたしの選んだヤコブよ。わたしの愛する友アブラハムの末よ。9 わたしはあなたを固くとらえ／地の果て、その隅々から呼び出して言った。あなたはわたしの僕／わたしはあなたを選び、決して見捨てない。

◆イザヤ書44:1以下 44:1 そして今、わたしの僕ヤコブよ／わたしの選んだイスラエルよ、聞け。2 あなたを造り、母の胎内に形づくり／あなたを助ける主は、こう言わ

れる。恐れるな、わたしの僕ヤコブよ。わたしの選んだエシュルンよ。3 わたしは乾いている地に水を注ぎ／乾いた土地に流れを与える。あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ／あなたの末にわたしの祝福を与える。

▼ 23-26 節 一般的な主の御業を述べて賛美する。〈自然〉と〈イスラエル〉に対する主の恵み深い摂理と支配の要約的な告白。

23 節

- 口語 われらが卑しかった時に／われらをみこころにとめられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主は私たちが卑しめられたとき、私たちを御心に留められた。その恵みはとこしえまで。
- フラ わたしたちが卑しめられたとき、わたしたちを心に留められた。主の慈しみは永遠。
- LB 神様は、私たちがどれほど弱い存在か、思い起こしてください。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 かれは われらが低いとき われらを思い起こし、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 低みにあるわれらを思い起こし、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 私たちが低くされていたとき 私たちを思い出し 慈しみはとこしえに。
- 新共 低くされたわたしたちを 御心に留めた方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

23 節

「われら・わたしたち」の想起と解放として歴史を振り返る。

【低くされたわたしたち】「低くされていたとき」「卑しめられたとき」とは単純に考えれば悪戦苦闘ないし敗退していたとき、或いは、踏みにじられて苦しむ殊。ここでは、イスラエルの歴史の中のエジプト時代やバビロン捕囚のことを中心に、すべての点で示された主の救いと導きを指すと読める。

24 節

- 口語 われらのあだからわれらを／助け出された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主は私たちを敵から救い出された。その恵みはとこしえまで。
- フラ わたしたちを敵から救い出された。主の慈しみは永遠。
- LB 敵の手から救い出してくださる神様の恵みは、絶えることはありません。
- 岩波 われらの仇どもから われらをたすけ出す、まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 攻め寄る者たちからわれらを解放された、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 敵から私たちを助け出した方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 敵からわたしたちを奪い返した方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

24 節

救われたことは解放されたことである。

25 節

- 口語 すべての肉なる者に食物を与えられる者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 主はすべての肉なる者に食物を与えられる。その恵みはとこしえまで。
- フラ すべての生き物に食べ物を与えられる。主の慈しみは永遠。
- LB 神様はいのちあるすべてのものを養われるお方です。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 すべての肉にパンを与えて。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 肉なるものすべてに糧をお与えになる方、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 すべて肉なるものに糧を与える方に。慈しみはとこしえに。
- 新共 すべて肉なるものに糧を与える方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

25 節

石川は、「25 節は、唐突な感じを与える節である。無上な支配者のもとで日々の糧を得るのにも苦労している当時の人々の願いが反映か」と記す。

【すべて肉なるものに糧を与える方】全ての人間に対する神の配慮を示す。マタイによる福音書 5:45 のイエスの言葉に通じるものがある。「糧」の原意はパンで、創造の業は、生き物に糧を与えることとして結果的にあらわれている。

◆マタイによる福音書 5:45 あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

26 節

- 口語 天の神に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
- 新改 天の神に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。
- フラ 天の神に感謝せよ。主の慈しみは永遠。
- LB 神様はいのちあるすべてのものを養われるお方です。その恵みは絶えることはありません。
- 岩波 讃えよ、天の神（エル）を。まことに、かれの恵みはとこしえに。
- 月本 天の神を讃えよ、じつに、かれの慈愛は永遠に。
- 共同 天の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
- 新共 天にいます神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

26 節

136 編の結びである。1-3 節と共に 136 編を囲んでいる。136 編は、135 編と共に、120-134 編の巡礼歌集の後に置かれ、賛美によって締めくくる働きをしている。

【天にいます神】「天の神」という表現は、詩篇の中ではここだけ。ヨナ書 1:9、エズラ記 1:2、ネヘミヤ記 2:4 参照。

◆ヨナ書1:9ヨナは彼らに言った。「わたしはヘブライ人だ。海と陸とを創造された天の神、

主を畏れる者だ。」

◆エズラ記1:2 兄弟の一人ハナニが幾人かの人と連れ立ってユダから来たので、わたしは捕囚を免れて残っているユダの人々について、またエルサレムについて彼らに尋ねた。

◆ネヘミヤ記2:4 すると王は、「何を望んでいるのか」と言った。わたしは天にいます神に祈って、5 王に答えた。「もしも僕がお心に適い、王にお差し支えがなければ、わたしをユダに、先祖の墓のある町にお遣わしてください。町を再建したいのでございます。」

ヴァイザーは「神の世界創造、世界秩序という奇跡の行為は、イスラエルの民に対する神の救いのわざと同様、神のとこしえに変わらぬ恵みの中に根拠を持っている」と言う。

■月本は言う（森加筆）

136 篇は、直前の 135 篇と同様、二つの面から神ヤハウエを賛美する。

一つは、イスラエルの歴史における救済である。「創造の神」と「歴史の神」という神の異なる性質における統合が記される。

135 篇と 136 篇は双子の詩篇と呼ばれたが、135 篇 15-18 節のような、偶像批判はみられない。また、節毎に「慈しみはとこしえに」と詠い、典礼の詩篇として一貫した形式が整っている。

思想と信仰という面で特筆すべきことがあるとすれば、23-25 節に織り込まれたそれである。

23-24 節は、それまで詠ってきた歴史におけるヤハウエの業のまとめである。135 篇 4 節では出エジプトの出来事が神ヤハウエによる「選び」としてまとめられているが、136 篇は、その選びを苦難からの解放として総括している。

旧約において、イスラエルは偉大な民であったからイスラエルは偉大な民であるがゆえに選ばれたのではない。むしろ、弱小の

民であったがゆえに、神に「宝の民」として選ばれたのである。申命記 7:6-8、26:5-9 参照。これが旧約聖書における選民思想の根幹である。出エジプトは、そのことを確認する伝承だった。

したがって、自らの歴史を回顧するとは、何よりも、この事実を確認することだった。

それを 136 篇 23 節において、「低さ」「低み」と表現する。主ヤハウエは、高みにあって低みに目を向ける。詩篇 138:6、イザヤ書 57:15 など参照。そして、低きにある者を高め、高ぶる者を低くする神なのであると信じられてきたのである。サムエル記上 2:6-8（ルカ 1:51-53）参照。

◆サムエル記上2:6-8 6 主は命を絶ち、また命を与え／陰府に下し、また引き上げてくださる。7 主は貧しくし、また富ませ／低くし、また高めてくださる。8 弱い者を塵の中から立ち上がらせ／貧しい者を芥の中から高く上げ／高貴な者と共に座に着かせ／栄光の座を嗣業としてお与えになる。大地のもろもろの柱は主のもの／主は世界をそれらの上に据えられた。

そこに、古代イスラエルで培われてきた唯一神信仰の逆説的な特色があるのである。

他方、25 節の「すべての肉なるものに糧を与える方に感謝せよ」は、4-9 節で詠われた創造の神が、一回限りのものではなく、被造物である生き物すべてを養う働きとして今なお続いている、と詠う。

即ち詩篇 136 編は、創造と維持という二重の神の業を自然の中に神のみ業を洞察しているのである。私たちが創造と歴史の神を賛美するとしたら、どこに眼差しを向ければよいのだろう。（以上）